
厳格なる宇宙人

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

厳格なる宇宙人

【Nコード】

N6331J

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

宇宙人は言った。「おい、信号、赤だぞ」

宇宙人は言った。「おい、信号、赤だぞ」

首根っこを掴まれた男が言い返す。「ふざけんな、会社に遅れる」
強引に宇宙人の手を離すと走り去った。

宇宙人は言った。「九時の約束だっただろう」

向かい合って座った男は後頭部を掻いた。

「いやあ、寝過ぎして」

「目覚ましもないのか？」

「いや、あるけどさあ」

「むう……」

公園の前に占い師がいた。

占い師は宇宙人を呼び止めて、言った。「死相が見えます」

「私には見えないなあ」と応えて、宇宙人は去った。

「私の気持ちなんて解らないのね」と目の前の女が言った。

「解らん」と宇宙人は切って捨てた。

「独りでも生きていける」と若者が言った。

宇宙人は応えた。「じゃあ、そのカップメンは如何するんだ？」

「スーパで買う」

「……」

宇宙人は地球を去ることにした。

彼は思っていた。

知性は社会性や協調性や理性と共に萌芽するものだ。しかしどうやら前提が違ったらしい。母星に帰って早く報告せにやならんと

思いつつ、地球を後にした。

世の中、色んな異星人もいるんだなあと思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6331j/>

厳格なる宇宙人

2010年10月13日08時36分発行